[12]　仕　　様

形　式　の　呼　び		IS－3　／　IS－3NE
種　類		しん式　自然対流形
点　火　方　法		マッチ点火
使　用　燃　料		灯油（JIS 1号灯油）
燃　料　消　費　量		2.68kW（0.261 L／h）
暖　房　出　力		2.68kW
油　タ　ン　ク　容　量		3L
燃　焼　持　続　時　間		約11時間
標　準　適　室		木造住宅　11.5㎡（7畳）まで　　コンクリート住宅　15㎡（9畳）まで
外　形　寸　法		高さ 525mm×幅 400mm×奥行 400mm（置台を含む）
質　量		6.2kg
し　ん	種　類	普通筒しん（ニッセン石油ストーブ63号しん）
	呼び寸法	内径 65mm×厚さ 3.0mm
対震自動消火装置		UB－5Aしゃ閉消火式
付　属　品		マッチ廃軸入れ

[13]　アフターサービス

■保証（無料修理）と保証書について

- ●この商品には保証書が付いています。「お買い上げ日、販売店名」などの記入をお確かめのうえ販売店からお受取りになり、大切に保管してください。
- ●保証期間はお買上げいただいた日から１年間です。
- ●この取扱説明書および保証書に記載されている事項を守らないことが原因の故障および事故につきましては保証の対象になりませんのでご注意ください。
- ●この製品は国内仕様です。海外での使用は保証の対象になりません。
- ●アンモニア、塩素、イオウ、酸等の含まれる物質による金属の劣化等は、保証の対象になりません。

■修理サービスについて

- ●故障・異常の見分け方と処置方法（12ページ参照）により処置してもなお調子の悪いときは、お買い求めの販売店または弊社にご相談ください。
- ●保証期間中であれば保証書の規定に従って無料修理させていただきます。
- ●保証期間が過ぎているときは、お買い求めの販売店または弊社にご相談ください。修理によって使用できる製品は、お客様のご要望により有料修理いたします。

■補修用性能部品の最低保有期限

- ●石油ストーブの補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造打ち切り後６年です。
- ●この期間は、経済産業省の指導によるものです。

日　本　船　燈　株　式　会　社

本　　社　埼玉県吉川市大字高久555番地（〒342－0035）
電　　話　048（981）2661
大阪営業所　大阪市旭区大宮5丁目2番30号 旭ビル2階（〒535－0002）
電　　話　06（6954）5513
URL　http://www.nipponsento.co.jp

1204

ニッセン自然通気形開放式 石油ストーブ

IS-3（なみ有りほや） IS-3NE（なみ無しほや） 取扱説明書

正しく使って上手に節約

目　　次

⚠危険

ガソリン厳禁
使用燃料：灯油

⚠警告

寝るとき消火

給油時消火

使用時には、この取扱説明書をよく読んでストーブを家族全員で正しく使用してください。
なお、この取扱説明書は、保証書と共に必ず保存してください。
燃料は必ず良質の灯油（JIS１号灯油）を使用してください。
このストーブは燃える炎を美しく見せるために空気を多く必要とします。
空気通路である穴の開いた部品の穴に塵やほこりが詰まりますとスス（油煙）やにおいが発生します。部品の穴を月１回以上定期的に掃除して、いつも最良の状態で使用してください。

日　本　船　燈　株　式　会　社

この取扱説明書および製品表示では、ストーブを安全に正しくお使いいただき、使用者への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな表示をしています。表示内容および意味は次のとおりです。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

ここに示した表示は、⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 に区分しています。

⚠ 危険	取扱いを誤った場合、使用者が死亡又は重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。
⚠ 警告	取扱いを誤った場合、使用者が死亡又は重傷を負う可能性が想定される場合。
⚠ 注意	取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険が想定される場合及び物的損害のみの発生が想定される場合。

取扱説明書のイラストの横にあるマークは次の意味を表しています。
⃠「禁止」してはいけない行為。 ●「強制」必ず実行していただく行為。 ⚠「注意」注意を促します。

⚠ 危険

ガソリン厳禁

ガソリンなどの揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。

⚠ 警告

スプレー缶厳禁

殺虫剤などのスプレー缶をストーブの上や前に放置しないでください。
熱でスプレー缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。

カーテン、可燃物近接厳禁

カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しないでください。
火災の原因になります。

換気必要

換気せずに使用し続けないでください。
酸素が不足すると、不完全燃焼しスス（油煙）や一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。
使用中は必ず1時間に1～2回（1～2分）換気して新鮮な空気を補給してください。（窓の凍結、地下室など）換気を十分行えない場所では、使用しないでください。

寝るとき消火

寝るときや外出するときは必ず消火してください。
予想しない事故が発生するおそれがあります。
消火の際は、ハンドルを左に止まるまで回して、火が完全に消えていることを確かめてください。

衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。

給油時消火

給油は、必ず消火してから行ってください。
火災の原因になります。
また、油タンクや置台などにこぼれた灯油は、よくふき取ってください。

可燃性ガス使用厳禁

ストーブを使用している部屋で、可燃性ガスを発生するもの（ベンジン、シンナー、ガソリン）、スプレーを使用しないでください。

やかんのせ禁止

やかんやなべなどをのせないでください。
振動や接触によってやかんやなべなどの熱湯がこぼれやけどのおそれがあります。

給油口口金は確実に締めてください。

口金を斜めに締めたりすると、簡単に口金が外れて、火災の原因になります。

⚠ 注 意

居室内給油禁止

給油は、必ず火の気のないところで行ってください。
火災のおそれがあります。

燃焼中移動禁止

火のついたまま持ち運ばないでください。
やけどのおそれがあります。
また、転倒すると火災の原因になります。

異常時使用禁止

スス（油煙）、においの発生、炎の色など異常燃焼を起こしたときは使用しないでください。
緊急の場合でもあわてずに、しんを下げて消火してください。
（8ページ参照）

ほこりの除去 スス（油煙）やにおいの発生に注意

このストーブは燃える炎を美しく見せるために空気を多く必要とします。
空気通路である穴の開いた部品の穴に塵やほこりが詰まりますとスス（油煙）やにおいが発生します。
部品の穴を月1回以上定期的に掃除をしてください。
掃除する穴の開いた部品は7ヶ所あります。（9、10ページ参照）

高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部（図の網かけ部分）に手などをふれないでください。
やけどのおそれがあります。
特に、上面板やほやには、絶対にふれないでください。

変質灯油禁止

変質灯油、不純灯油（汚れた油、水の混じっている灯油など）を使用しないでください。異常燃焼や故障（しんが下がらなくなる）のおそれがあります。
（5ページ参照）

純正部品の使用

しんなどの部品は、必ず純正部品（指定された部品）を使用してください。
予想しない事故が発生するおそれがあります。

分解修理・改造の禁止

故障、破損したら使用しないでください。
不完全な修理や改造は、危険です。
お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

保管時にしていただくこと

長期間使用しないとき又は保管するときは、必ず灯油を抜いてください。
傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。火災のおそれがあります。

次の場所では使用しない
火災や予想しない事故の原因になります

- ○ほこりや湿気の多い場所、布や綿の加工所、犬や猫を飼っている部屋。
  空気の通路である穴の開いた部品の穴に塵やほこりが詰まりますとスス（油煙）やにおいが発生します。
- ○風の当たる場所、部屋の出入口、人の通るところ
  風があたると炎が不安定になり、スス（油煙）が出たり異常燃焼の原因になります。
- ○水平でない場所、不安定な場所
- ○暖炉の中、マントルピースなどストーブが囲われる場所
- ○不安定な物を乗せた棚などの下
- ○可燃性ガスの発生する場所、又は溜まる場所
- ○直射日光の当たる場所、温度の高い場所
- ○温室、飼育室など人のいない場所
- ○理・美容室、クリーニング店などスプレーや化学薬品を使う場所
- ○換気が十分に行えない場所

可燃物との距離を離す

可燃物（木壁、ふすま、合板壁など）から、下図の寸法以上離して使用してください。
特にカーテンや障子など燃えやすいもののそばでは使用しないでください。
また洗濯物や衣類を乾燥させるために使用しないでください。

100cm以上
50cm以上
50cm以上
50cm以上
50cm以上

[2]　各部の名称・各部のなまえ

■ 外　観　図

上部わく金

放熱板

ほ　や

水平わく棒
止めねじ・ナット

ほや受網

上面板

ほや受

つり手

燃焼調節装置

しん

しん押えパッキン

ほや台

取付足止め
ねじ

マッチ廃軸入れ

ほや台下部
通気板

給油口ふた

ほや台受

油量計

ハンドル

燃焼調節装置
パッキン

防じん板

油タンク

置　台

消煙器引上げ棒

対震自動消火装置

■ 構　造　図

消煙器

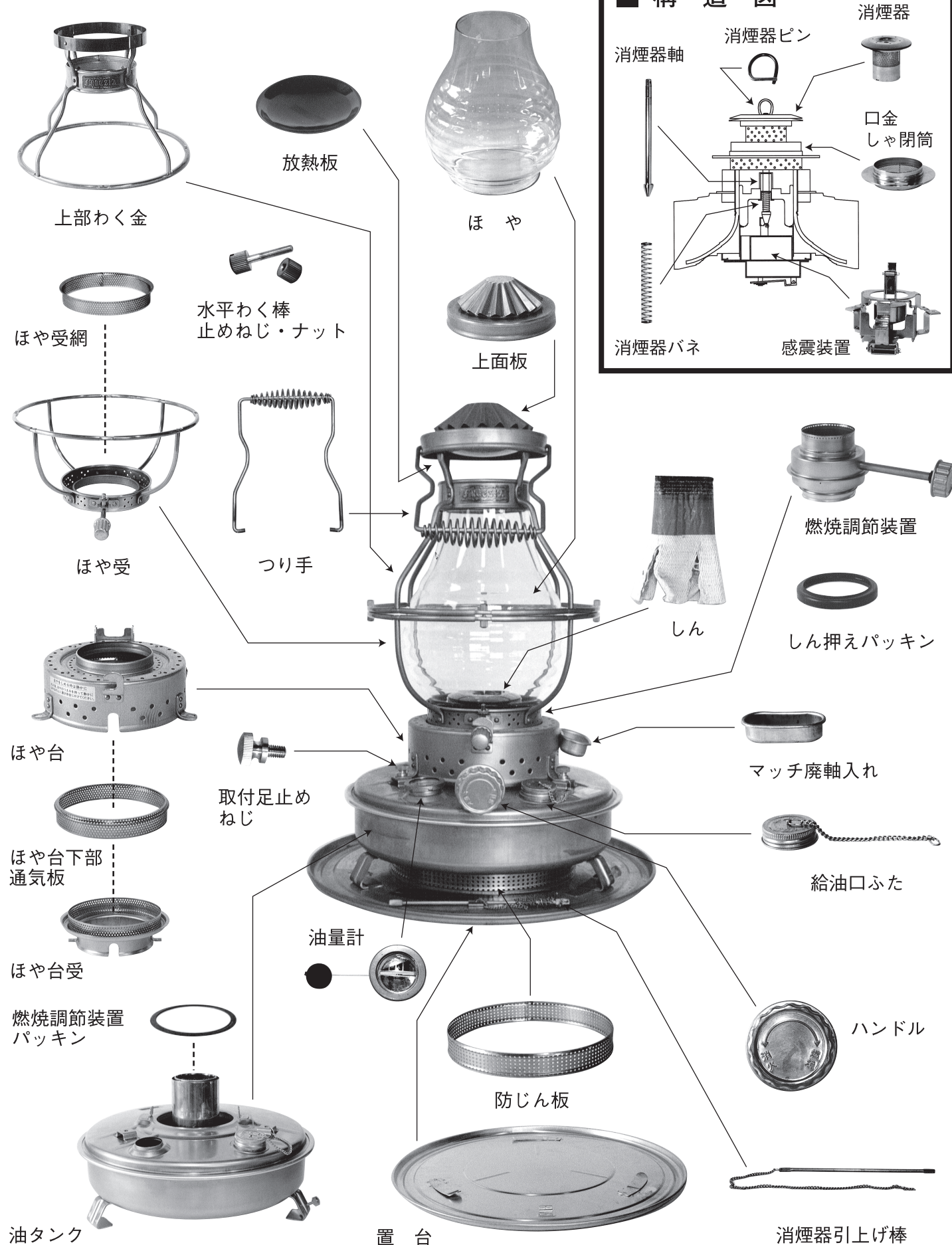
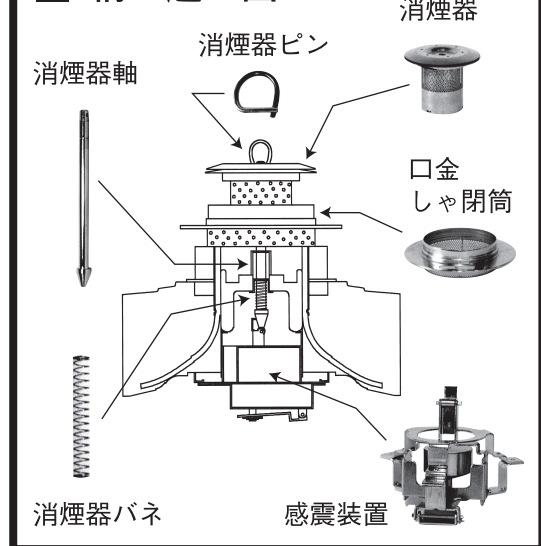
消煙器ピン

消煙器軸

口金
しゃ閉筒

消煙器バネ

感震装置

[3]　使 用 す る 場 所

●ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。
前記の ⚠ 警告 ⚠ 注意の項をよく読み、使用が禁止されている場所では絶対に使用しないでください。

●特に、ほこりや湿気の多い場所、布や綿の加工所、犬や猫を飼っている部屋では絶対に使用しないでください。
空気の通路である穴の開いた部品の穴に塵やほこりが詰まりますとスス（油煙）やにおいが発生します。
7箇所の穴の開いた部品の穴を月１回以上定期的に掃除してください。

●燃焼により熱せられた空気は上昇し、再び熱を奪われ降下します。
これが続けられ循環して対流となり、室内を暖めますので、室内の形状、使用状況を考えて比較的、温度分布にむらが起きにくいところを選んで設置してください。

[4]　使 用 前 の 準 備

■ 梱包材の除去と確認、及び部品の装着

段ボール箱、梱包材はおしまいになるとき必要になりますので保管してください。
また、取扱説明書および保証書は、ストーブの取扱方法がわからないとき、修理依頼するときなどに必要になりますので、必ず保管してください。

次の手順で開梱および部品の装着を行ってください。

①段ボール箱からストーブ本体、防じん板、置台、マッチ廃軸入れを取り出してください。

②油タンク下側の感震装置の振子を抑えている段ボールを取り出してください。

③水平わくにある４箇所のねじをはずして、ほやの上下にある保護紙をはずしてください。

ねじをはずす

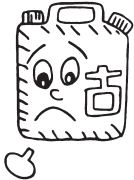
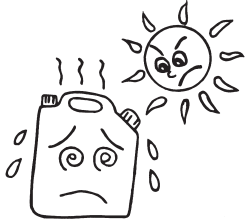
保護紙を
はずす

④防じん板を置台の中心に置いてください。

⑤油タンクを右に回し置台のタンク固定金具に油タンク脚をはめ込み、脚についているねじで固定してください。

⑥マッチ廃軸入れをほや台側面の切込みに掛けてください。

※３箇所の脚が置台のタンク固定金具に確実にはまっていることを確かめてください。

■ 燃　料

●燃料は必ず灯油（JIS 1号灯油）を使用してください。

ガソリン厳禁

●変質灯油、不純灯油（汚れた油、水の混じっている灯油など）は絶対に使用しないでください。

●灯油は必ず火気、雨水、ごみ、高温及び直射日光を避けた場所に保管してください。

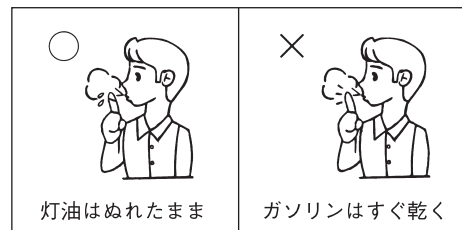
灯油とガソリンの見分けかた

指先に燃料をつけ、息を吹きかける。
（火気のない所で行ってください。）

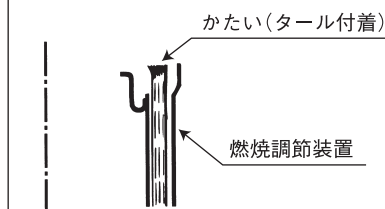
○
灯油はぬれたまま

×
ガソリンはすぐ乾く

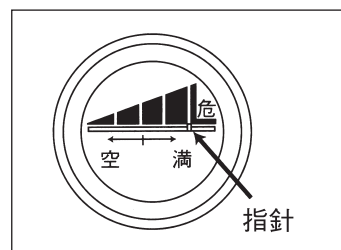
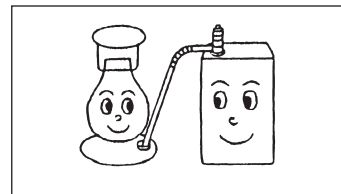
●変質灯油、不純灯油とは、

変質灯油			不純灯油
古い灯油、ひと夏もち越した灯油	長期間、日あたりがよい場所や、温度の高い場所に保管した灯油	長期間、容器のふたが開けてあったり、乳白色のポリ容器で保管した灯油	灯油以外の油がほんの少しでも混入した灯油 水やごみが混入した灯油

○灯油の保管には、必ず灯油用のポリ容器をお使いください。
○灯油はシーズン中に使いきり、もち越さないようにしてください。
○極度に変質した灯油は、黄色みがかったり、すっぱいにおいがします。

●変質灯油や不純灯油を使用すると、
○変質灯油、不純灯油を使用しますと、油の程度にもよりますが、１日～30日のご使用でしんに多量のタールがたまって、しんが下がらなくなったり、炎の大きさにむらが出たり、スス（油煙）が出たり、激しいにおいがしたり、異常燃焼したりします。
○水が混入した灯油を使用しますと、油タンクに油が残っていても火力が小さくなり、しんが下がらなくなったりするおそれがあります。
○ガソリン、シンナーなど揮発性の高いものを使うと火災の原因になります。

●万一変質灯油や不純灯油を使ったときの処置のしかた
○油タンク内の灯油を入れ替えてください。
○悪い油をきれいに抜き取り、新しい灯油で内部を２～３回洗ってから使用してください。
（悪い油が残っていると、再発します。）
○しんの手入れをしてください。（11ページ参照）
○しんの手入れをしても効果のないときは、しんを取り替えてください。（13ページ参照）
○しんの取り替えはお買い求めの販売店または、弊社にご相談ください。（15ページ参照）

■ 給油のしかた

給油は必ず消火してから5分以上待って、火が消えていることを確かめてから行ってください。
燃料は必ず灯油（JIS 1号灯油）を使用してください。

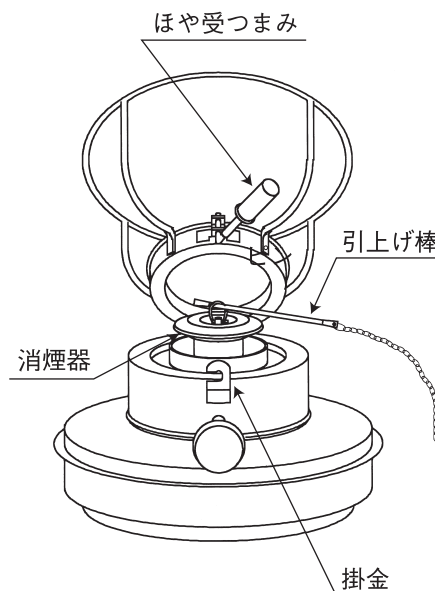
●給油の際の手順と注意
1. ハンドルを左に止まるまで回して、火が完全に消えていることを確かめてください。
2. 給油口のふたを左に回して、取り外してください。
3. 市販の給油ポンプなどを使用して、油量計を見ながら給油してください。
4. 油量計の指針が「満」印を指したら給油を止めてください。
5. 給油口のふたは確実に締めてください。
給油口を斜めに締めたりすると、誤ってストーブを倒した場合に、多量の油が給油口から漏れ、火災の原因になります。
6. こぼれた灯油はよくふき取ってください。

■ 点火前の準備と確認

●対震自動消火装置のセット

対震自動消火装置をセットしなければ使用出来ません。

○セットの手順
1. ほや受けつまみを左にひねって掛金からはずし、ほやを後方に倒してください。
2. 消煙器の上にあるピンに、置台に付いている引上げ棒を引っ掛け、勢いよく上げそのまま２～３秒静止させ、ゆっくり下げます。セットされると消煙器は下までさがらず途中で止まります。
3. 途中で止まらない場合は何回か繰り返してください。

○セットするときの注意
1. ほやの開閉は静かに、消煙器の引上げは勢いよく確実に操作してください。
2. ストーブは必ず水平な場所に置いてご使用ください。傾いていると対震自動消火装置が誤動作します。

[5] 使用方法、使い方

■ 点　火

●はじめてお使いになるときや、新しいしんと交換したときは、給油してから30分以上たってしんに灯油が十分しみてから点火してください。
●しんに十分灯油がしみないうちに点火すると、吸い上げ不足のため火力不足（炎が小さい状態）が続くことがあります。
●はじめてご使用になるときは、点火後しばらくの間多少においがします。これはストーブに付着している油などが焼けるためであり、異常ではありません。

●点火のしかた

①ほや受けつまみを掛金からはずし、ほやを静かに後方に倒してください。
対震自動消火装置が作動し、消煙器が下まで下がっているときはセットしてください。
（6ページ「対震自動消火装置のセット」参照）

> 注1. 消煙器の上にあるピンに、引上げ棒を引っ掛け、消煙器を1～2回上下に少し動かして、消煙器が正しい位置にセットしてあることを確かめてください。
> 消煙器を正しい位置にセットしていないと点火できません。

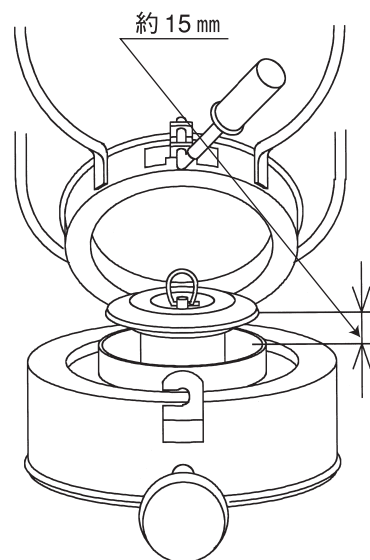
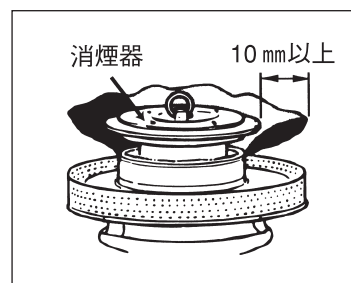
②ハンドルを右に回して、しんをいっぱいまで上げ、マッチなどで点火してください。

> 注2. しんをいっぱい上まで上げたとき、しんの上端と燃焼調節装置の上端が同じ高さ（たいら）であることを確かめてください。
> しんが燃焼調節装置より出ていると、炎が伸びてスス（油煙）の出る原因となります。

消煙器セット位置

③点火したらすぐにハンドルを左に少し回してしんを下げ、ほやをもとにもどし、ほや受けつまみを掛金に掛けてください。

④しんの全周に火が回ったらしんを静かに上げ､炎を大きくしてください。

> 注3. しんを少し下げずに火が回るまで放置した場合、しん全周に火が回るまでの間、一時的にスス（油煙）がでることがあります。これはしん全周に火が回るまでの間は、空気の流れが部分的に異なるためであり、異常ではありません。
> 注4. マッチの燃えかすをしんの上や周りに落とさないでください。
> スス（油煙）がでたり、異常燃焼し危険です。
> マッチの燃えかすは付属のマッチ廃軸入れに入れてください。

■ 炎の調節

●炎の調節はハンドルの回転により行います。
右に回せば強くなり、左に回せば弱くなります。

●小さい炎でお使いの場合は、消煙器のかさの回りに炎の環が10㎜以上見える程度にして燃焼させてください。

小さい炎の場合

> 炎の環を10㎜以下にすると、燃焼のための空気のバランスがとれなくなり、燃焼状態が悪くなったり、スス（油煙）がでることがあります。
> また、しんにタールがたまりやすくなり、しんの傷みも早くなります。

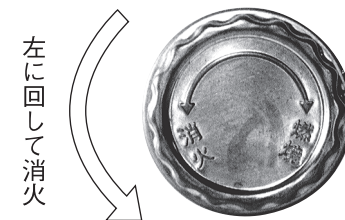
●炎が黄金色で環状に斜め上方に燃え上がっているときがよい燃焼状態です。

●カーボンやマッチの燃えかすなどの異物がしんに付着していると、点火後しばらくして炎が部分的に伸びたり、欠けたりします。
一度消火して、しんやしんの周りに異物の付着がないか、確かめてください。

■ 消　火

●ハンドルを左にいっぱいまでゆっくり回し、しんを下げてください。
ハンドルを回してもすぐに火は消えませんが、異常ではありません。
3～5分で消火します。

●完全に消火したことを必ず確かめてください。
お出かけやお休みになるときは、特によく確かめてください。

> 日常の消火では、ストーブを押したりゆすったり、特に衝撃を与えたりして対震自動消火装置を強制的に作動させて消火しないでください。
> 強い衝撃を与えた場合、ストーブおよび対震消火装置が損傷し地震時に有効に働かないおそれがあります。

●緊急時の消火方法
（ハンドルを回して消火できない緊急時にだけ行ってください）
○油タンクを両手でささえ、倒れないように十分注意しながら、ストーブを前後に強くゆすり、対震自動消火装置を作動させて消火してください。
○消火後3～5分は引火の危険がありますので、そのまま放置してください。

●しんが下がらず消火できないときは…
○しんにタールやカーボンがたまるなどにより、ハンドルを回しても消火できないときは、無理にハンドルを回さずそのまま火が消えるまで燃焼させてください。
○火が消えるまで燃焼させますと、しんにたまったタールやカーボンが取れ、しんの手入れが行えます。
○緊急に消火したいときは、上記の「緊急時の消火方法」により消火してください。

[6] 対震自動消火装置

対震自動消火装置は、ストーブを使用中に発生した強い地震や万一誤って倒したとき、自動消火し火災を防ぐためのものです。このためJISに定められた100～200ガルの振動により作動するように精密に調整されています。ご使用中における日常的な振動、傾斜では作動しません。

●取扱上の注意
○ストーブは必ず水平なところで使用してください。
○ストーブに強い衝撃を加えないでください。
○対震自動消火装置を分解したり、油をつけたりしないでください。
○対震自動消火装置に塵やほこりがつきますと、作動が確実でなくなるばかりでなく、燃焼状態も悪くなりますので、年1回程度定期的に掃除してください。
○再セットは、対震自動消火装置が作動してから3～5分以上待って、完全に消火していることを確かめてから行ってください。
（6ページ「対震自動消火装置のセット」参照）

> 消火直後は熱のためガスがたまっています。急に着火することがありますので注意してください。

○地震によって作動した後、再びお使いになる場合は周囲の可燃物、器具の損傷、油のあふれなどの異常がないことを確かめてから、再セット、点火の操作を行ってください。

■ 点検・手入れのときの注意

点検・手入れは、消火後ストーブ全体がよく冷えてから行ってください。

- ●対震自動消火装置は規定の振動で働くように調整されています。感震部を分解したり、油をつけたりしますと感度が変わりますので、絶対に行わないでください。
- ●さびなどが多く発生しているものは、装置を交換してください。
- ●しんは、ハンドルを右にいっぱい回したとき、燃焼装置の上端と同じ高さになるように取り付けてください。
- ●点検・手入れや掃除を行うときは、ストーブに付着したほこりやスス（油煙）などにより手が汚れますので、手を保護するため必ず手袋を使用してください。
- ●空気通路の部品の穴を掃除するときは、必ず歯ブラシなどを使用してください。

■ ストーブの周囲の点検　使用のたびに

常に整理、掃除をし、可燃物や障害物をストーブの周辺に置かないでください。

■ ほこりの除去、空気通路（穴の開いた部品の穴）の掃除　月１回以上

スス（油煙）による天井、壁、家具、衣類、電気製品などの損傷事故を防ぐため、必ず月１回以上定期的に空気通路の掃除を行ってください。

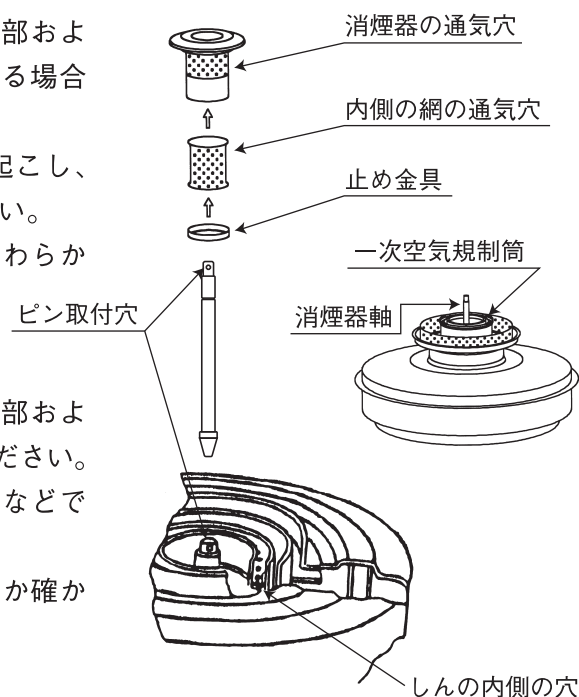
このストーブは燃える炎を美しく見せるために空気を多く必要とします。
空気通路である穴の開いた部品の穴に塵やほこりが詰まりますとスス（油煙）やにおいが発生します。
部品の穴を月１回以上定期的に掃除をしてください。
特に、犬や猫を飼っている部屋では使用禁止ですが、万一使用する時はぬけ毛による穴の開いた部品の穴の詰まりに十分注意してください。

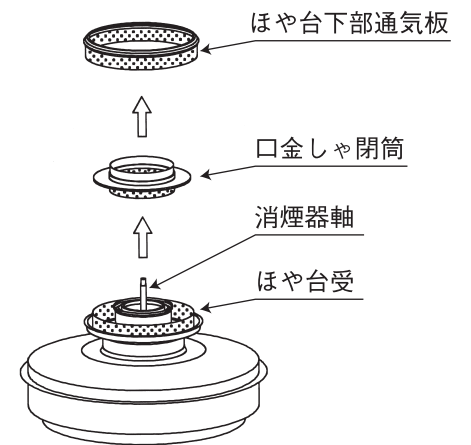
掃除する穴の開いた部品は7ヶ所あります。
①消煙器及び内側の網の通気穴、②一次空気規制筒の通気穴（しんの内側の穴）、③ほや台受、④口金しゃ閉筒、⑤ほや台下部通気板、⑥ほや受網、⑦防じん板

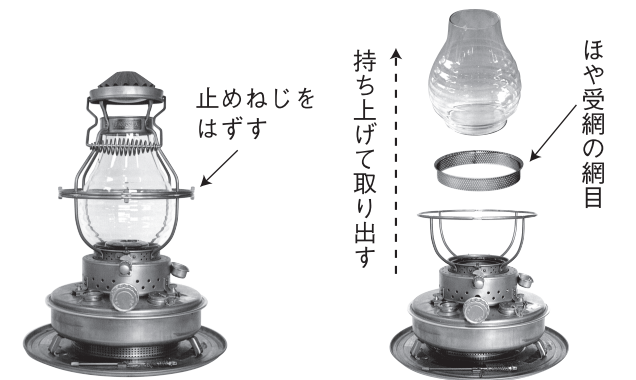
①消煙器及び内側の網の通気穴の掃除

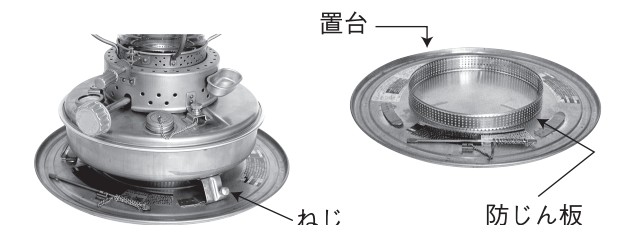
1. 13ページ「古いしんのはずし方」と同じ方法でストーブ上部および消煙器を取りはずしてください。（消煙器軸が下がっている場合は引き上げておいてください。）
2. 消煙器の下側にある２箇所の切り欠き部分をペンチなどで起こし、内側の網を引き出し、各穴を歯ブラシなどで掃除してください。
3. 消煙器のかさにスス（油煙）などが付着している場合は、やわらかい布でふき取ってください。

②一次空気規制筒の通気穴（しんの内側の穴）の掃除

1. 13ページ「古いしんのはずし方」と同じ方法でストーブ上部および消煙器を取りはずし、一次空気規制筒が見えるようにしてください。
2. しんを少し下げて通気穴部分（しんの内側の穴）を歯ブラシなどで掃除してください。
3. 通気穴にカーボンやマッチの燃えかすなどがつまっていないか確かめてください。
4. 同時にしんの点検も行ってください。

③ほや台受、④口金しゃ閉筒、および⑤ほや台下部通気板の掃除

1. 13ページ「古いしんのはずし方」と同じ方法でほや台受、口金しゃ閉筒、およびほや台下部通気板を取り外してください。
   （ストーブの上部を持ち上げたとき、ほや台受の上に、ほや台下部通気板がのっています。）
2. 各部品の穴を歯ブラシなどで掃除してください。
3. 掃除したらはずしたときの逆の順序で組み立ててください。口金しゃ閉筒は、「前」銘板が手前を向くように取り付けてください。ほや台下部通気板は曲げのある方が上です。

⑥ほや受網の掃除

1. 4箇所ある水平わく棒止めねじをはずし、つり手を持ち上げて上部わく金をはずしてください。
2. ほやをはずし、下にあるほや受網を取り出し、歯ブラシなどで掃除してください。
3. 組み立てるときは、ほや受網の横に広がった方を必ず上にしてください。

⑦防じん板の掃除

1. 油タンクの脚のねじを緩め、油タンクを水平に左に回し、置台を取りはずしてください。
2. 置台の上にある防じん板の穴を歯ブラシなどで掃除してください。

■ 油漏れ、油のたまり、油のにじみの点検

- ●油タンク、置台にこぼれたり、たまったり、にじんだ油はきれいにふき取ってください。
  火災の原因になります。
- ●油タンクの給油口の口金付近の汚れ、ごみなどはきれいにふき取ってください。
- ●油が漏れている場合はすぐに使用をやめ、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
  火災の原因になります。

■ ほやの掃除

- ●ほやがスス（油煙）などにより汚れたときは、上記の「ほや受網の掃除」と同じ方法でほやをはずし、しめらせた布で掃除してください。
- ●ほやに欠けやひび割れがある場合は、交換してください。
- ●ほやの掃除には、水を使用してください。洗剤を使用すると白濁する場合があります。

ストーブを使用しているときは、ほやに冷たい水などがかからないように注意してください。
ほやが割れるだけでなく、火災の原因になります。
ほやの掃除は消火後ストーブが十分冷えてから行ってください。

[7] 日常の点検・手入れ

■ しんの点検・手入れ　月１回

変質灯油や不純灯油を使用した場合、または小さな炎のまま長時間使用した場合、しん上部にカーボンやタールが付着しやすくなります。
タールやカーボンが付着しますと、次のような不具合が生じることがあります。

○燃焼が悪くなる　○火の回りが悪い　○スス（油煙）が出る
○炎が欠ける　○炎が大きくならない　○ハンドルが固くなる

このような不具合が生じたときは、しんの手入れを行ってください。

●手入れのしかた

1. しんの手入れを行うときは目の届く風のあたらない場所をおえらびください。
2. 油タンクの灯油を空にして点火し、自然に消火するまで燃焼させてください。
風があたると炎が乱れ、スス（油煙）が出たり、異常燃焼の原因になり危険です。また、しんの手入れ中は臭いがしますので、十分に換気をしてください。
3. 完全に自然消火したことを確かめてから、しんを下げてください。

●しんの手入れをした後は給油してから30分以上おき、しんに十分灯油がしみてから点火してください。

●次のようなときは新しいしんと交換してください。
○しんの手入れをしてもカーボンやタールがとれないとき。
○しんの先端が消耗して薄くなったり、短くなったり、凹凸になっているとき。
○しんが水を含んでしまい、炎が大きくならないとき。
○その他、手入れをしても効果がないとき。

●しんは上端部を均等に切りそろえてありますので切り取らないでください。しんの上端部がふぞろいになりますと異常燃焼の原因となります。

■ 対震自動消火装置の点検・手入れ

1. 油タンクの灯油を抜き取ってください。
2. 置台から油タンクをはずしてください。
3. 対震自動消火装置にほこりや燃えかすが付着していると、作動だけでなく燃焼状態も悪くなりますので柔らかいハケなど でかるく掃除してください。
4. 掃除後は、対震自動消火装置をセットして２～３回ストーブを前後に強く動かして、消火装置が確実に作動することを確かめてください。
消火装置が確実に作動しない場合は、お買い求めの販売店などに修理・点検を依頼してください。

対震自動消火装置を分解したり、油をつけたりしないでください。

[8] 定期点検

■定期点検に関する注意

長時間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。１シーズンに１回程度シーズンの終了後などに、お買い求めの販売店または修理資格者〔㈶日本石油燃焼機器保守協会（TEL 03－3499－2928）で行う技術管理講習会終了者（石油機器技術管理士）など〕のいる店などに点検依頼されることをおすすめします。

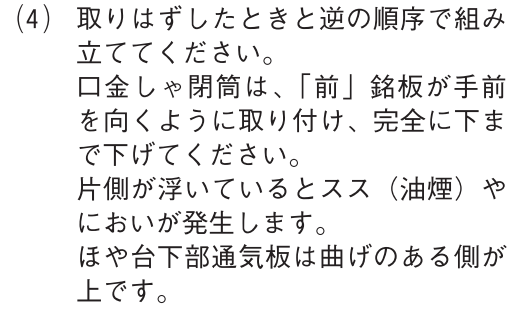
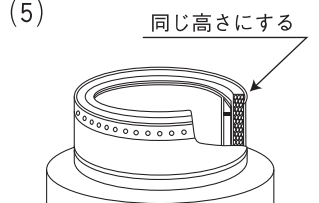
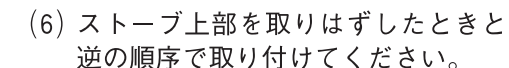
[9] 故障・異常の見分け方と処置方法、修理を依頼される前に

万一具合が悪くなったときは、次の表を参考にして処置してください。
不完全な処置は事故の原因となります。処置に困るような場合は、お買い求めの販売店に連絡してください。

原因＼現象		点火時	燃焼時							消火時		処置方法
		点火しない	火の回りが遅い	いつのまにか消えている	スス（油煙）が出る	炎の調整が出来ない	炎がかたよる	炎が大きくならない	においがする	しん上下の操作が重い	しんが下がらない	消火しない	
燃焼	灯油が不足している	○		○				○					給油する
	灯油の質が悪い	○	○	○	○			○	○	○	○		油をぬき、しんを交換して良質の灯油を使用する
	ガソリンを使用				○	○						○	
	水が入っている	○	○	○				○		○			油と水を抜き取りしんを交換する
しん	出し過ぎている				○							○	しんの上端が燃焼装置の上端と同じ高さになるようにする
	出が少ない	○	○			○		○	○				
	上端の揃いが悪い				○		○						しんの上端の凹凸を同じ高さにして全周にわたって一様にそろえる
	汚れている又はカーボンがついている	○	○		○					○			しんの点検・手入れをする。悪い油を使ってしん全体が汚れているときは油を抜き、しんを交換する
消煙器その他の空気通路からの空気の流通が悪い					○	○	○	○	○		○	○	本書の空気通路の掃除の項を読んで全部の空気通路をよく掃除する
燃焼調節装置の故障でしんの上下ができない						○					○		燃焼装置を交換する
換気不足					○			○					換気する（1時間に1～2回、1～2分）

不完全な修理や調整は危険ですので、部品交換や調整が必要な場合にはお買い求めの販売店または（財）日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会終了者（石油機器技術管理士）がいる販売店にご相談ください。
部品交換の際は、必ず専用部品を使用してください。

■ しんの交換

交換用しんは、必ず器具に適合したJIS合格品ニッセン石油ストーブ63号しんを使用してください。
器具に適合していないしんや、粗悪なしんを使用しますと、性能を十分に発揮できないばかりでなく火災や中毒の原因になりますので、絶対に使用しないでください。
検査に合格したしんには右記のマークが貼ってあります。マークは白地に赤色で表示されています。

● 古いしんのはずし方

(1) 3箇所の取付足止めねじをはずしてください。

(2) つり手を持ってストーブの上部を持ち上げてください。

(3) ほや台受の上にのっているほや台下部通気板をはずし、つぎに消煙器の上にあるピンを横にずらしてはずし、消煙器を取りはずしてください。消煙器軸が下がっている場合は、引き上げてください。

(4) 口金しゃ閉筒をはずし、ハンドル軸を右方向に回してほや台受の掛金をはずし、ほや台受を取りはずしてください。

(5) 燃焼調節装置を持ち上げて油タンクからはずし、古いしんを取りはずしてください。

● 新しいしんの取り付け方

(1) 燃焼調節装置のハンドルを右にいっぱい回しておき新しいしんを下から入れてください。

(2) しんの上端が燃焼調節装置の上端と同じ高さになるように注意しながら、しんをしん押さえのつめに刺すようになじませ、たるみのでないように取り付けてください。

(3) 燃焼調節装置を、ハンドルが前方を向くようにしながら油タンクに取り付けてください。
この時、燃焼調節装置パッキンが正しくはまっているか確かめてください。

(4) 取りはずしたときと逆の順序で組み立ててください。
口金しゃ閉筒は、「前」銘板が手前を向くように取り付け、完全に下まで下げてください。
片側が浮いているとスス（油煙）やにおいが発生します。
ほや台下部通気板は曲げのある側が上です。

(5) ハンドルを左右いっぱいまで回して、しんを2〜3回上下してから右にいっぱい回したとき、しんの上端が燃焼調節装置の上端と同じ高さになっていることを確かめてください。
上端がそろっていないときは、しんを入れなおしてください。

(6) ストーブ上部を取りはずしたときと逆の順序で取り付けてください。

燃焼調節装置の上端よりしんが上に出ていますと、炎が伸びてスス（油煙）の出る原因になります。
また、しんが出すぎている場合、対震自動消火装置の消煙器が完全に下までさがらなくなり、緊急消火できなくなることがありますので、十分ご注意ください。

■ ほやの交換

● ほやの交換は、10ページ「ほや受け網の掃除」を参照して行ってください。

[11] 保 管（長時間使用しない場合）

おしまいになるときは、9〜11ページの「日常の点検・手入れ」を参照して、保管してください。

保管するときは油タンクの灯油を抜き取ってください。灯油を抜いた後は内部をよく乾燥させてください。油タンクに灯油を残した状態で長期保管すると、しんと油タンクが固着し故障の原因となります。また、傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。

1. しんの手入れを行ってください。（11ページ「しんの点検・手入れ」参照）
2. 油タンクのごみや水は、さびの原因となりますのでよく取りのぞいてください。
3. ストーブ全体をよく掃除してください。特に吸気通路である穴の開いた部品の穴は念入りに掃除してください。
（9ページ「ほこりの除去、空気通路（穴の開いた部品の穴）の掃除」参照）
4. 対震自動消火装置は作動させた状態で保管してください。
5. 故障した箇所、傷んでいる部品がある場合は交換してください。
6. 専用の段ボール箱及び梱包材に入れて乾燥した場所に水平に保管してください。
7. 長期間保管した後にストーブを使い始めるときは、ハンドルを2〜3回左右いっぱいに回し、しんがスムーズに動くことを確かめてください。また、ストーブを前後に強く動かして、対震自動消火装置を2〜3回作動させ、確実に作動することを確かめてください。
8. 真鍮はご使用の環境により大気中の湿気、酸素、アンモニア等の影響を受け化学反応によるクラック（割れ）が発生する場合があります。ご使用・保管の際は器具にクラック（割れ）が発生していないことをご確認ください。
また、クラック（割れ）が発生した場合はご使用を中止し、弊社にご相談ください。修理（部品交換）にて使用できる製品は、お客様のご要望により有料修理いたします。